

やまなし  
医療最前線  
症状に潜む  
県立中央病院から

〈225〉



滝沢壮一医師

健診や人間ドックで受ける血液検査でよく目にする「HbA1c」の項目は糖尿病の可能性を探る目的がある。糖尿病になる「二歩手前」の予

備群では自覚症状がなく軽視がちだが、生活習慣を改善することで失明や人工透析の可能性もある糖尿病の発症を抑えることができるため、気を付けて確認しておきたい数

値だ。

HbA1cは「ヘモグロビンエーワンシー」と呼ばれ、赤血球の中にあるヘモグロビンが血液中の糖と結合した割合を表す。直前の食事の有無により数値が大きく上下する

糖尿病「HbA1c」でチェック

予備群の段階で発症抑制

「血糖値」に対し、測定前1〜2カ月の平均血糖値が反映され、糖尿病の正確な診断には欠かせない指標となる。

糖尿病はHbA1cの数値と空腹時の血糖値で診断される。基準に満たないとしても、

状況がないため、気付かない間に進行してしまうことも少なくない。

同院糖尿病内分内分泌科部長の滝沢壮一医師は「HbA1c高値を放置すると、急性の高血糖緊急症となり命に関わ

人の割合となる。同院でも他院からの紹介などで受診した糖尿病患者は20年に450人を突破。高血糖緊急症の入院患者数は増加傾向となっている。

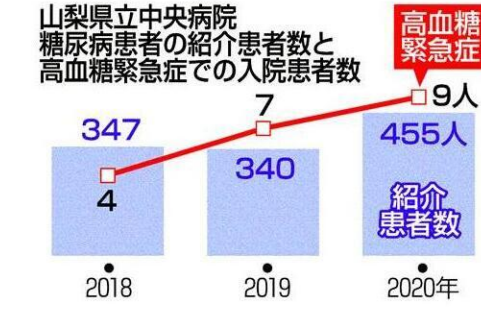
一度、糖尿病となれば正常な血糖値を保つために薬の服用など治療を一生続けなければならぬが、予備群では生活を改めることで発症予防が期待できる。このため、検査を受け、結果としっかり向き合う意識が欠かせない。

いずれかが高い値を示すなど糖尿病の可能性が疑われる「境界型（予備群）」が存在する。

糖尿病は血糖値を一定に抑える働きをするホルモン「インスリン」が不足したり、効き目が弱まったりする病気で、悪化すると腎臓や目、神経にも障害が起きることで知られている。喉が渇きやすく体重が減ることもあるが、初期の段階や予備群では自覚症

ることもある」と警告。「予備群の場合、まずはバランスのいい食事や適度な運動で血糖値を下げる取り組みを行う」と自己管理の大切さを強調する。

滝沢医師は糖尿病を意識するHbA1cの目安として「6・0%以上」を挙げる。「予備群も過剰な糖で血管がダメージを受けて脳卒中、心筋梗塞などのリスクが高まる。コロナ禍であっても早めに受診してほしい」と呼び掛ける。



山梨県立中央病院  
糖尿病患者の紹介患者数と  
高血糖緊急症での入院患者数

生活の乱れや運動不足など社会生活の変化が影響していると考えられ、予備群を含めれば2千万人で国民の6人に1

す。 Ⅱ次回は24日、シリーズ「コロナ収束の鍵」を掲載しま